



税務署の職員からスポーツ界に転身し、大正から昭和にかけて全国的な人気を得た方がいました。その競技とは、次のうちどれでしょうか？

- ①相撲 ②野球 ③テニス



「関脇綾昇竹蔵」こと大場竹蔵（1908-1969）は、宮城県仙台市に生まれ、高等小学校卒業後、仙台税務監督局又は税務署において給仕として働いていました。

大正12（1923）年、仙台税務監督局に税務監督官として転任してきた鈴木新之助は、大場少年の体格に惚れ込み、「属になれたとしても高が知れているが、関取ともなれば局長や大蔵大臣とも対等に話せるようになる」と、角界入りを熱心に勧めました。ちょうどその頃、千賀ノ浦親方（関脇綾川五郎次）がリンゴを使った飲料の製造免許を申請するために仙台税務監督局を訪ねて来ました。鈴木はこれを好機と見て、大場少年を親方に紹介しました。

角界に飛び込んだ大場少年は、大正14（1925）年1月場所に綾昇竹蔵という四股名で初土俵を踏み、昭和7（1932）年5月場所に十両昇進を果たし、昭和20（1945）年6月場所を最後に約20年の力士生活に別れを告げ、引退して年寄千賀ノ浦を襲名しました。

当時の日本社会は雇用関係が流動的であったので、このように思わぬ転身を遂げた者もいたようです。



答え：相撲



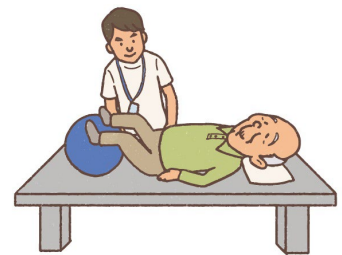
時代劇で有名なキャラクター「座頭市」は、もともと「天保水滸伝」という江戸時代の小説に登場する脇役でした。その後、「座頭市」を主役とする作品が製作され、人気を博しました。劇中では、マッサージ師（按摩）として生計を立てている姿が描かれていますが、彼は今でいうところのどのような租税を納めていたのでしょうか？

- ①営業の売上に応じた売上税 ②免除されて無税
③営業する権利を得るための免許税



江戸時代の按摩の営業は、当道座（とうどうざ）という盲人が組織する座（職能集団）が管理していました。座には男性の盲人だけが加入することができ、座に**免許税**を納めることで、技術を習得し、営業することができました。多くの按摩は、店舗を開いていたのではなく、各地を遍歴していました。現地では、村人が村境まで出迎え、次の村境まで送り届け、必要に応じて村人が自分の家に泊め、食事も提供しました。この支出は村全体の公的経費となり、村入用に計上して決算しました。

江戸時代の人々は移動の自由が大きく制限され、自分の家に余所者（よそもの）を入れることも泊めることもできませんでした。盲人は元の身分を抜け、当道座に加入することで、営業権のほか、遍歴に必要な身分を得たのです。



答え：③営業する権利を得るための免許税



昭和24年（1949年）8月の「シャープ勧告」（日本税制報告書）に基づき、青色申告制度が導入されました。次の①から③のうち「青色申告発祥の地」といわれているのはどこでしょうか。

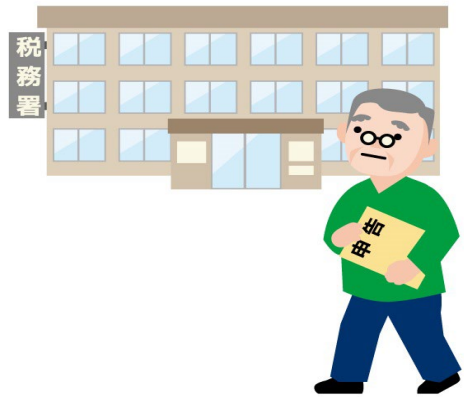
- ①横浜市中区 ②東京都目黒区 ③大阪市西区



目黒区の権之助坂で洋品店を経営していた喜多村実氏は、昭和22年（1947年）に新しく法制化された申告納税制度を受けて、ありのままの経営実態を申告に反映させる「ガラス張り経営」の必要性を感じました。「ガラス張り経営」とは、経営の内容を正確に把握・記録し、その経営内容を誰の前にも公開するという前代未聞の方法であり、喜多村氏は帳簿を新聞紙上で公開することまでしたそうです。

喜多村氏は、この方法を実践するため、昭和23年（1948年）12月、目黒区内の東急東横線第一師範駅（現在の学芸大学駅）前に「東京金物チェーン第一師範売場」を開業しました。やがて、「ガラス張り経営」運動に賛同して参加する中小企業者も徐々に現れました。

このガラス張り経営の資料を見てシャープ博士は青色申告の構想を示唆された。シャープ博士は『税務官庁を強化して徹底調査』すべきか、『**業者の誠実な申告**』を推進すべきかといった納税の根本方針について迷っていたが、最終的には民主的納税ということから青色申告の導入を決意した」



答え：②東京都目黒区



鎌倉幕府は、日本で最初の武家政権とされていますが、有力寺社の所持地があったり、御恩と奉公の関係から忠勤を誓った御家人の本領の支配を保証したりしたため、将軍が直接全国を支配し税を徴収することはできませんでした。将軍の知行国（領主が支配する国）は関東御分国と呼ばれ、時期により場所が推移しました。それでは、源頼朝が将軍だった時代、関東御分国は次のうちのどの国だったのでしょうか。

- ①駿河国（現在の静岡県）、②山城国（現在の京都府）、
③和泉国（現在の大阪府）



頼朝時代の関東御分国は、元暦元年（1184）に始まります。この時は、**駿河国**のほか三河国（愛知県）、武蔵国（東京および神奈川県、埼玉県の一部）の3カ国でした。この関東御分国は、翌年には上記3カ国のほか、相模国（現在の神奈川県）、伊豆国（現在の静岡県）、上総国（現在の千葉県）、下総国（現在の千葉県）、信濃国（現在の長野県）、越後国（現在の新潟県）、豊後国（現在の大分県）の6カ国が加わりました。以後、鎌倉幕府が滅ぶまで数は増減しますが、基本的に駿河、相模、武蔵、越後の4カ国が中心となっていました。関東御分国のほかに鎌倉幕府が直接に税を徴収できた直轄地は、関東御領で、これは平家から没収した土地などから構成されていました。

このほかの鎌倉幕府の主要な財源には、全国の御家人に所領内の公田（鎌倉時代に作成された大田文という田畑の面積、領有関係などを記した文書に記載された田）の広狭に応じて賦課した関東御公事（銭納が原則）がありました。関東御公事は、将軍御所、内裏、寺社の修繕費や諸行事の費用、堤防費などに充てられ、当初は臨時に課されていましたが、恒常的なものとなってきました。



答え：①駿河国